

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 生きる未来 子供社会を 創造的に	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもへの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 2020東京オリンピックパラリンピック開催を踏まえ、生徒の自主性や自立性を伸ばす指導を行い、生徒会活動の活性化を図る。	○生徒・保護者アンケート ・「生きる力を育むための進路指導：1年「職業調べ」、2年「職場体験・上級学校調べ」、3年「面接指導」は、生徒に役立っていると思うか」 ・「教員は、分かりやすい授業を行うために学習指導方法を工夫・改善していると思うか」 ・「生徒会活動や委員会活動は、充実していると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	【アンケート回答 保護者:196名 生徒:247名】 1. 外国語教育指導員は、オールイングリッシュの授業進行や給食を一緒に食べながらの英語カフェ、英語部活動へ参加などを通じ、コミュニケーション能力育成に取り組んでいる。 2. ICTサポーターの支援を受けながら、ICT機器の新たな使い方を校内研究授業などの場で模索し、多くの教員が日々の授業でICT機器を活用した授業を行っている。 3. 小中一貫教育の会での話し合いにより、小学校と中学校の共通した取組として、「縄跳び」を取り入れた実践をおこなっている。 4. 生徒会本部役員を中心とした「いろいろな国の言葉によるあいさつ運動」をはじめ、各委員会が、それぞれの活動目的に合わせた自主的活動を推進している。	◆外国語教育の充実、ICT機器を利用した教育や小中一貫教育など、従来より進んだ教育を通して、生きる力を身に付けてほしい。 ◆語学は慣れることが大切。そして使うことによりお互いのコミュニケーションがとれるようになると思います。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 言語活動の充実を図りながらアクティブラーニング型の「分かる授業」やICTを活用した授業を全教員が工夫実践する。	○生徒・保護者アンケート ・「学力は向上していると思うか」 ・「授業が分かりやすいと思うか」 ・「少人数学習別授業は、成果をあげていると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 夏季休業中と2学期後期の面談の機会に、定期考査や学習調査の結果をまとめた学習カルテを参考に、学習のつまずきや学習方法について指導を行っている。 2. ステップ学習チェックシートだけでなく、分からないところを確認して個々の学習につなげられるように、習熟度別少人数指導を有効に活用していく。 3. 平日の火・木・金の放課後と年間6回の土曜日、夏季休業中の5日間に、学習指導講師による数学・英語の補習学習を実施している。 4. 大田区学習効果測定の結果を分析し、小学校とも情報共有しながら指導の重点を定めて、作成した授業改善推進プランの内容を生かした授業を進めている。 5. ICT機器の活用に加え、話し合ったり発表しあったりする言語活動を中心に、生徒の主体的活動を授業に入れる取組を行っている。	◆学習面では、もつとがんばってほしい。 ◆生徒が諦めてしまうことの無い様、努力されていると思います。 ◆「学習カルテを～」については、取組評価が「4」となっていたきたいと思います。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 信頼関係を築く「粘り強い指導」、自己肯定感・自己有用感を高める「ほめる指導」、温かい「丁寧な言葉がけ」を全教員が意識して実践し生徒の生きる力の育成に努める。	○生徒・保護者アンケート ・「学校生活を楽しくしていると思うか」 ・「いじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいると思うか」 ・「お子さんの良いところや改善すべきところを理解していると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 小中一貫教育の会で小学校と中学校の生活のきまりをお互いに確認し、学習規律についても教員が相互理解することで、生徒がきまりを守ろうとする意識を高めることを目指す。 2. 道徳教育推進教師による校内伝達研修や、講師を招聘する道徳の校内研究授業の実施などをおこなった。 3. 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果から、対応が必要と思われる生徒の情報を教職員で共有し、スクールカウンセラーも含めて組織的な対応を行った。 4. 日常の声かけや行動観察、アンケートの実施などにより、いじめの未然防止や早期発見に努めた。 5. 問題行動や不登校問題への対応では、関係する教職員が集まり情報共有し、問題への対応について協議をおこなった。 6. 学習や係活動、行事の取組や部活動など学校生活全般にわたり、生徒の良い活動を認めて、生徒の自己肯定感、自己有用感を高めるかかわりを、全教員が意識して実践した。	◆過ごしやすい環境を作って、思春期の子どもたちが社会性を身に付けてほしい。 ◆「問題行動～」については、必要にもかかわらず、会議が実施されなかった事案があるということでしょうか。心配です。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 生徒のやる気を引き出し、生徒の個性や能力を伸ばす部活動指導を全教員が取り組む。	○生徒・保護者アンケート ・「学級指導・生徒指導・道徳指導を通して、身だしなみを整える/掃除をしっかりと行う/挨拶をきちんとする/時間やきまりを守る」の指導を行っているが、それらは達成されていると思うか」 ・「運動会、音楽祭などの学校行事は、楽しく充実していると思うか」 ・「部活動は充実した活動になっていると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 「早寝・早起き・朝ごはん」月間に、養護教諭から生徒・保護者向けの啓発プリントを発行し、各学級で指導をおこなった。 2. 給食だけでなく、季節のメニューや食材の産地に関する情報や栄養に関する知識などを分かりやすく解説した。 3. 縄跳び週間では、休み時間を使って継続した取組を実施し、マラソン大会では、自己記録更新を目指す取組をおこなった。 4. 全教員が部活動指導にかかわりを持ち、生徒の個性や能力に合った指導を行うことで、自己肯定感の向上を目指した。	◆部活動は、あるいは教育よりも重要だと思う。部活動を通じて社会性が身に付けていくのだと思う。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 適正な評価基準を設定するとともに、説明責任・結果責任に耐える評価方法を全教員が工夫実践する。 生徒との面談及び交換日記、スクールカウンセラーによる全校生徒面接を通して、教育活動の土台となる生徒理解を深める。	○生徒・保護者アンケート ・「本校に入学してよかったと思うか」 ・「評価・評定を適正に行っていると思うか」 ・「教員はお子さんを理解して、相談事や悩みについて親身に対応していると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. 授業公開日のご意見は即日集約し、全教員にフィードバックすることで、授業改善のヒントにつなげている。 2. 主任教諭が夏季授業改善セミナーに参加して得た研修成果を生かし、校内研究授業の協議会で助言をおこなっている。 3. 区内小中学校の研究発表会に参加することで、研究成果を各自の授業改善や学校としての取組の改善に生かしている。 4. 次年度の特別支援教室開設に向け、講師を招いての研修会やサポーターの教室準備をおこなった。 5. 評価のための資料を計画的に収集し、生徒・保護者に説明した評価基準に沿って、学習成果の適切な評価をおこなった。 6. 学級担任による面談と交換日記、スクールカウンセラーによる面接やアンケートなどにより、生徒を多角的にとらえることで生徒理解を深めた。	◆先生方には、教育指導、生活指導についてがんばっていたいただきたい。
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 生徒の学力の向上を図るために、毎日の家庭学習を励行する。 地域や関係諸機関の行事やイベントに積極的に参加して、地域の人々との交流を大切にするとともに地域に貢献しようとする生徒を育成する。	○生徒・保護者アンケート ・「大森一中生は、地域の一人として自覚を持ち、地域の活動に貢献していると思うか」 ・「学校が推進する家庭学習の励行を理解して、家庭で実践させていると思うか」 ・「地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育活動に活かしていると思うか」 …との質問に対して「そう思う」「やや思う」と答えた割合の平均	4: 85%以上 3: 75%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	1. ホームページ等により、学校基本情報発信の他、悪天候時の登校対応や学校行事参観に関するお願いや進行状況の伝達を迅速におこなった。 2. 地域教育連絡協議会において、教育課程の進捗状況や学校生活の様子を報告し、公開日や行事参観のご案内をして、多面的に評価いただけるよう努めている。 3. 学校支援本部と連携しながら、遊漁船組合のご協力によるカサゴの稚魚放流や、地域の企業・店舗のご協力による職場体験をおこなった。 4. 計画的に家庭学習をおこなう習慣を身に付けられるよう、生徒による予想問題作りや学習計画表のチェックなど、継続しておこなっている。 5. 地域祭礼行事等への自主的な参加の他にも、自治体主催イベントのボランティアとして生徒会が主体となって参加し、地域の一人としての自覚を高めることにつながっている。	◆生徒会役員の生徒は、地域のイベントに参加してくれて、地域の方からとても高い評価をいただいている。 ◆今後も、地域等のイベントに参加して欲しいと願っています。 ◆地域への発信力があり、すばらしい。 ◆学校、家庭、地域の3者が連携して、生徒の健全育成に取り組まれていると思います。	